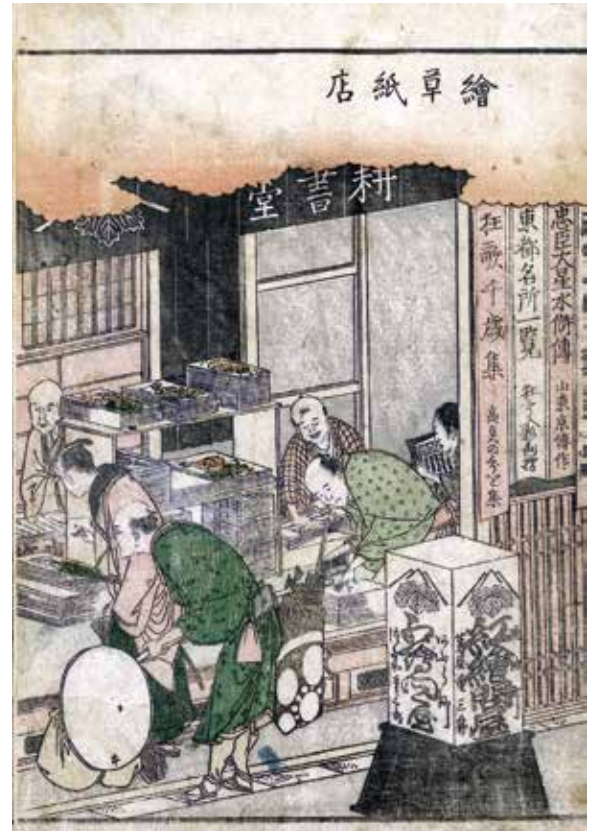


江戸随一の名プロデューサー

# 葛屋重三郎と「一目千本」

遊女を花に見立てた

小笠原誓



「江戸勝景東遊」 葛屋重三郎の書店『耕書堂』の店先

葛屋重三郎の生い立ちと成長

NHK大河ドラマ「べらぼう」の主人公、葛屋重三郎は、生まれも育ちも「吉原」のちに歌麿や写楽を世に出し、江戸の町をにぎわせる名版元に成長しました。若き葛屋は吉原でまず書店を開業します。書店といっても引手茶屋の店先を借りて、本を売ったり、貸本をやって遊女や妓楼の主人と親しくなっています。やがて「吉原細見」といういわゆる吉原のガイドブックの制作に乗り出します。すでにドラマでも紹介されましたが、あの平賀源内が序文を書いています。まもなくオリジナルの書籍を刊行し、一人前の版元の仲間入りをします。

## 「一目千本(華すまひ)」の発行

安永3年(1774)に葛屋が最初に発行した本が「一目千本(華すまひ)」という遊女の評判記です。乾・坤2冊に分かれ、一冊の大きさは通常の和本(B5サイズ)の半分の大さで、懐に入れて持ち歩くことができる大きさです。別名の華すまひは花の相撲を意味しています。さてその内容ですが、遊女の評判記とい

うといまでいう「タレント名鑑」的な本をイメージして、現代ならビジュアル写真満載の本になるかと思えます。しかし葛屋の仕掛けは、遊女の似顔絵ではなく、遊女を花に見立てて、この本に描かれた絵はすべて植物です。乾には春から夏に咲く花を6種、坤には秋から冬に咲く花を各6種掲載しています。合計122種の植物と122名の遊女の名前が記されています。そして乾を東方、坤を西方にして、お互いを競わせてみるような構成になっています。

## 北尾重政の絵と植物の描写

この絵を描いたのは一流浮世絵師の北尾重政です。植物の特徴をしっかりと捉え、またすべて活花にした状態を描いています。江戸中期はいつかのいけばな流派ができており、何流かわかりませんが、どれもきれいに活けてあり、わが国に記されています。描かれている植物は、春はサクラ、スイセン、ウメのほかクリソウ、アツモリソウまたワサビのような植物も描かれています。きつとピリッと辛い遊女だったのかもしれません。



乾巻の冒頭の土俵



紅卯木(ベニウツギ) 教盛草(アツモリソウ) さくら(ヤマサクラ) 竹や 其住 糸ひや 風折 松葉屋 はつ風



葛花(クズ) 山葵(ワサビ) 海相花(トベラ) 木蓮花(モクレン) 玉や しつ山 相ひしや 亀菊 たまや 白玉 大もんしや 大山



糧紳(サンキライ) 雁来紅(ハゲイトウ) かいとう(シュウカイドウ) まるや 小の町 松かねや 奥州 扇子屋 滝川

## 耕書堂の拡大と本拠地の移転

葛屋は最初、吉原大門前で書店「耕書堂(こうしやどう)」を営みますが、事業拡大に合わせて日本橋通町に進出して、「耕書堂」の新店舗をオープンさせ、以後、本拠地としました。

葛屋のプロデューサーとしての力量

葛屋が名プロデューサーとしての力量はここでも発揮されます。通常出版は版元が出版して、作家や絵師に原稿や絵を描かせて出版、販売をします。しかし葛屋はこの本を作る時、まず妓楼の主人や遊女から出資をもらい、それを元手に出版をして、できた本を出資者である妓楼や遊女に配ったそうです。そして彼女たちはなじみの客に「私はこの花よ」といって渡していたようです。またこの本は書店での一般販売はされず、吉原の中だけの本だったそうです。3年後の安永6年(1777年)に「手塚の清水」と改題して一般書店でも販売されました。しかしその時は妓楼と遊女の名前はすべて消して発行されました。

information

# べらぼうな花たち

番組題字 小笠原左衛門尉亮軒 筆

NHK「趣味の園芸 べらぼうな花たち」  
今年のNHK大河ドラマ「べらぼう」葛屋重三郎が夢中になる「べらぼうな花たち」を放送します。葛屋が生きた江戸時代に発達した花の文化を放送します。2月9日(日)、3月9日(日)Eテレ8時30分〜8時55分「趣味の園芸」の最後のミニコーナーで放送します。また趣味の園芸テキストでも紹介します。

右：「江戸勝景東遊」  
浅草庵市人(浅草市人) 著、葛飾北斎(初代) 画  
寛政12年(1800) 版元 葛屋重三郎(二代目)  
下：「一目千本(華すまひ)」  
紅塵陌人 序  
安永3年(1774) 版元 葛屋重三郎

# 花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 誓 発行所/名古屋園芸株式会社  
〒460-0005 名古屋市中区東様2-18-13 tel.052-931-8701  
http://nagoyaengei.co.jp/

25 2

名古屋園芸

ひな祭りの花飾り



せいようそうかずふ  
「西洋草花図譜」 ヒアシンス  
谷上廣南 画 大正6年

## information

花やみどりとの暮らし、春から始めてみませんか？  
2025年4月～9月 花の講座のプログラムが出来上がります！

この春からもフラワーアレンジ・ガーデニングなどの講座を開講します！日々花に触れ接している店頭スタッフが講師を務めますので講座といっても堅苦しくなく、普段から植物との暮らしを楽しんでみえる方ももちろん、初心者の方も気軽に楽しんでいただけるプログラムをご用意しております。

季節に合わせたフラワーアレンジメントや寄せ植えの定番講座に加え、名古屋園芸ならではの講座として花ハスや朝顔の育て方は毎回好評いただいております。2月上旬より店頭でパンフレットの配布ほか、ホームページからも各プログラムをご覧いただけますので、ぜひチェックしてみてくださいね。

皆様のご参加、お待ちしております！



◇お申し込みは  
花の講座専用電話 TEL: 052-937-3391  
受付時間 月～金曜日 10:00～17:00  
Webからもお申し込みできます。

名古屋園芸 | 検索

こちらからもどうぞ →



# 花の博物館

第349回

## 「東海道五十三次の内鞠子ノ図」

香蝶楼国貞(初代) || 歌川豊国(三代)  
天保頃(1830年)

小笠原 誓



これは広重の保永堂版の東海道五十三次を背景にして、前面に美人を描いたシリーズです。広重の保永堂版の東海道五十三次は当文庫に所蔵していませんので、紙面での比較はできませんが、ぜひネットで検索して見比べてください。背景の絵が酷似していることがよくわかります。名物とろろ汁の看板を描いていますが、広重は店の中央に看板を描いていますが、国貞は看板を店の左に変えています。やはり美人を前面に描いたために変更せざるを得なかったのでしょう。店の左右にある梅の木もそっくりに描いています。広重の東海道五十三次のほうが早く発行され、国貞はそれを見て自分の作品の背景として写したと思われる。

## 「東海道五十三国会丸子」

歌川広重(初代)  
弘化4年(1844年)〜嘉永5年(1852年)



歌川広重が、1833年(天保4年)に描いた代表作のひとつ「東海道五十三次(保永堂版)」から、およそ22年後の1855年(安政2年)に、最後の東海道シリーズとして制作したのが「五十三次名所図会」です。これまでの東海道シリーズを含む名所図会が横断に描かれることが多い中で、五十三次名所図会には縦横に描かれています。左に描かれている植物は開花中の長春バラ(コウシンバラ)です。このバラは四季咲きの性質があり冬でも開花します。女性の着物から見ても寒い時期に開花していることがわかります。